

高速プログラマブルアッテネータ MAT810

機械式アッテネータとは異なり、アッテネータ切替時のチャタリングやスパイクがありません。
細かな減衰量ステップの設定により、高精度な無線シミュレーションができます。
周波数範囲を16分割して補正し、帯域内の周波数特性をフラットにしています。



■ 対応アプリケーション

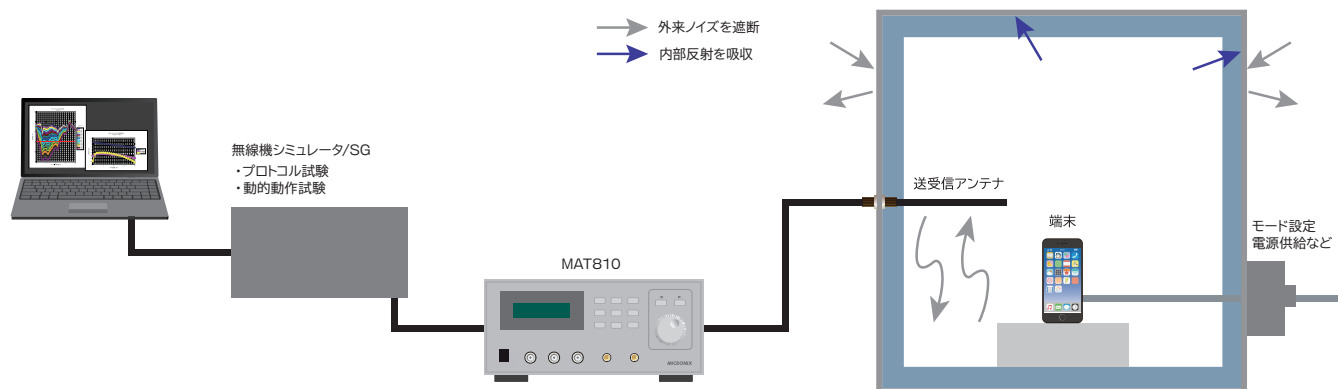
WiMAX / 携帯電話 / 無線LAN / RFID / Bluetooth / 微弱無線 / カーナビ
/ ETC・DSRC / 地デジなど

標準仕様

周波数範囲	300MHz ~ 6.6GHz
VSWR	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1.8以下@1~4.5GHz ・ 2.2以下@0.3~6.6GHz ・ 10dB ATTにて
最大減衰量	60dB
減衰量設定ステップ	0.05dB
確度 (各補正点及び +10dBm入力にて)	<ul style="list-style-type: none"> ・ $\pm 0.6\text{dB}$ @ 0~15dB ・ $\pm 1.0\text{dB}$ @ >15~35dB ・ $\pm 1.2\text{dB}$ @ >35~50dB ・ $\pm 1.8\text{dB}$ @ >50~56dB ・ $\pm 2.2\text{dB}$ @ >56~60dB
挿入損失	6.8dB以下@2GHz
使用最大入力	25mW @ 2dBコンプレッション
損傷入力レベル	+20dBm, 50VDC Max
入出力コネクタ	SMA (J)

※その他仕様はMAT800に同じ

アプリケーション例



1. 無線機シミュレータと電波暗箱内部に設置された端末に対して、電波暗箱内部に取り付けた送受信アンテナにて双方向接続が行える環境に設定。
2. 無線機シミュレータを使用して、各プロトコル(レイヤー1~3)試験を実施します。
3. 端末のハンドオーバー試験やフォールバック試験を行えます。
送信レベルは各規格に合わせ、MAT810の使用最大レベルを超えないように、送信レベルを確定してください。
また、規格値の大きいものは固定ATTの使用をお勧めします。

※仕様・形状は、事前の断りなしに変更されることがあります。※実際の色とは異なることがあります。ご了承ください。

